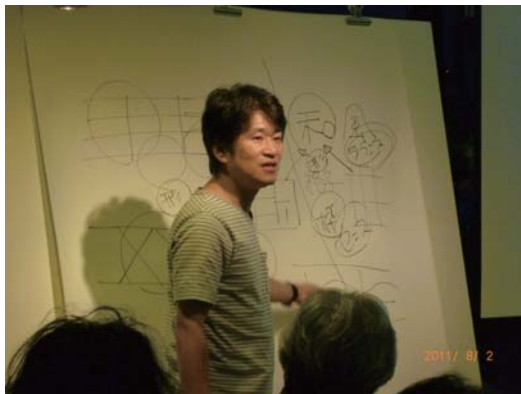


## 「時代のムード、スタイル、場の雰囲気創造」についての ディスカッションが開催されました。

講師：間宮吉彦／山納洋／羽場一郎／吉田順年／フランツ・オリバー／越田英喜  
日時：平成23年8月2日 18時30分～20時30分  
場所：中之島BANKS

前回の間宮塾長による講義「時代のムード、スタイル、場の雰囲気創造」についてのディスカッションが行われました。今回は山納塾長にディスカッションをコーディネートしていただき前回の講義を振り返りながら、過去の作品は参考にする、形から入らない・とらわれない、まず疑う、場を感じる、余白をとる、リノベーションとカスタマイズなどの多くのキーワードが出され白熱の議論が展開されました。途中、塾生の提案により座席の配置を変更するなど、これまでの講義より、一層塾生の意気込みが感じられました。次回のデザインビジネス塾は株式会社ハーズ実験デザイン研究所 ムラタ・チアキ氏の講義となっております。



## ディスカッション中に発言された言葉・用語

プロデュース力 マシステムのデザイン つぶす 店舗から住宅 時代性 まちのムード 解決 求められるデザイン 教育 おもしろさ すごさ どう活かすか  
余白 すごいと思わせない 人が居る 人の繋がり 空気感 ビジュアル 足りないものを導き出す嗅覚 コーディネート力 多様な知識 購入者の使い方のイメージ  
大きな視点での意見を パブリックのちんちん電車 タクシーの公共性 暮らしがどう変わるか 観光 移動する権利 中心地に追い込む アクセスが不便 町が分断 構築物の色 植栽 多様化 デザインの問題 軍艦アパート 都会は多様性の混在 自然と建物 人の作ったものは面白い デザインが誘発 何々風にしない 過去の作品は参考にする 顔が見える配置で 適当 直観力 和風 和む 調和する精神 粋なセンス 初めの発想に気づく 形から入らない とらわれない 自分の中に解決法を持つ 余白 聞く人によって解釈変わる 既存製品の付加価値に余白を とらわれやすい 自分をとらわれないように 最小限の機能は必要 若いころはとられる 精神がとられるか テーマとモチーフ 水害と人のすれ違い 軸は一つではない  
自分の立場を変える 空間を邪魔しない まず疑う 自分を疑う 強弱と組み合わせ 遊ぶ 技術力が無いと形にならない 広げるのは良いがまとめるのが難しくなる 新しさ 若い日本の建築家のデザインは似ている? 20世紀は変わっていった=重い、大きい 21世紀は同じものを求める=かわいい、小さい 日本の文化が評価された まちづくり 空間 時代 普遍性を楽しむ 古臭さから良さを感じるように 内装を変えて多様性を 車を多様に活用 リノベーションとカスタマイズ 良い無駄 プロであれば可能な中で無駄を創れる 水路から陸上交通へ 水辺の再生 無用の用 無駄ではない 精神的支柱 髪切り缺 音が鳴るようにリズム 暇 無駄は良い クリエイティビティは演繹と帰納 写真の構図の中に無駄 趣味 早急に答えを求めなくてよい 班に分かれて意見を出し合う 学ぶ姿勢 気づきを持って帰る 無駄を求めてはいけない 余白は気持ち良さ 計算された結果 掴みとれないものを モノが光るには空間が必要 空間とモノ ディスカッションにノウハウが蓄積できる クリエイティブな作業 相対的な関係性が生まれる 空間設計の中にアートをうまく取り入れる 人間関係構築 芸術家は無関係に制作する 芸術家との緊張感生じる 託す 頼もうと考えた時には失敗は無い 場を感じる 実行する